

ゾネンフェルス『ポリツアイ、 商業および財政の基本原則』第一巻の改訂について

——第一巻第四版（二七七四年）の発見とあわせて——

川 又 祐

- 1 はじめに
- 2 『基本原則』の出版過程
- 3 『基本原則』第一巻各版の構成
- 4 おわりに

1 はじめに

筆者は、前稿「ゾネンフェルスと『ポリツアイ、商業および財政の基本原則』」（川又、二〇一七）において、ヨーゼフ・フォン・ゾネンフェルス（Joseph von Sonnenfels, 1733-1817）の主著『ポリツアイ、商業および財政の基本原則』（以下『基本原則』と略記する）の

出版の歴史を中心に考察した。前稿刊行後、幸運にも『基本原理』第一巻の第四版（一七七四年）を入手することができた（図1¹）。この第一巻第四版は、これまでその存在が、学界では知られていなかったと言えるであろう。そこで、新たに発見された第一巻第四版の紹介と、『基本原理』構成の変化を明らかにしたい。

ゾネンフェルスは、後期カメラリスト、後期官房学派の代表者の一人として知られる。ドイツでは、一七二七年、ハレ大学およびフランクフルト・アン・デア・オーダー大学に官房学の講座が開設された。オーストリアでは、ドイツから四十年ほど遅れて、一七六三年十月三日、マリア・テレジア (Maria Theresia, 1717-1780) が、ポリツァイ学および官房学の講座をウィーン大学に導入することを決定した。そして、その最初の担当教授に任命されたのがゾネンフェルスである。ゾネンフェルスの『基本原理』は、彼がウィーン大学でこうした官房学の講座を講義する際の教科書として執筆された。教科書は三巻に分かれ、第一巻でポリツァイ学、第二巻で商業学、第三巻で財政学を論じている。広義の官房学は、ポリツァイ学、経済学（商業学）、そして財政学の三つから

構成されるが、『基本原理』の構成は、この三つの区分におおむね対応している。

さて、法制史家W・オグリス (Werner Ogri, 1935-2015) は、二〇〇三年に『基本原理』第一巻の第五・増訂版（二七八七年）を復刻した際、次のように述べていた。

「この〔復刻〕版について

この版では、ヨーゼフ・フォン・ゾネンフェルスの、三部から成る『ポリツァイ、商業、財政（学）の基本原理』第一巻の（現代化された）復刻が課題となっている。本書は、一七六五年から一八二二年の間に全部で八版を数えた。その最後の版は、著者が亡くなった直後に刊行された。三部のそれぞれ——一、ポリツァイ、二、商業、三、財政——によつて、一つの完結した全体が叙述されている。初版も後の版も、その都度、数巻に分けて、また時には数年にわたつて、出版されている。第一巻の初版は、一七六五年に——『ポリツァイ、商業および財政学の原理。政治学研究の手引き』²——という表題で

図1 『基本原理』第一巻第四版⁽¹⁾ 1774年 トラットナー刊

ゾネンフェルス『ポリツアイ、商業および財政の基本原理』第一巻の改訂について(川又)

二二九(九七三)



——、第二版はすでに上述の表題で一七六八年に、第三版は一七七一年に、第四版は一七八六年に、第五版は一七八七年に、第六版は一七九八年に、第七版は一八〇四年に、第八版は一八一九年に刊行されている〔傍点筆者〕。

この〔復刻〕版については、一七八七年の第五版を用いた³⁾。なぜならそれは、ゾネンフェルスにとって、「彼の」公的な名声と、君主制の〔法〕政治に対する影響力とが最高となった時に刊行されたからである。その上、第五版は、一番流布したと言つてよい（そしてそれゆえ、比較的簡単に利用できる）ものであった。第五版は、皇帝・国王の宮廷書籍印刷業者、大書籍商ヨーゼフ・フォン・クルツベックから、八折り本、五五二頁⁴⁾でウィーンで刊行され、表題頁版画としてモンテスキューの肖像画が登場している。

原典の表記法や句読点は、大体において保持されている。ただ、明白な、そして（あるいは）意味を混乱させている誤植は——暗黙の裡に——正してある。節の番号間違いや、注記の配列や順序の間違い

も同様である。こうした校正のために、——疑念がある場合には——一八〇四年の第七版が対照・比較目的に用いられている。間違っている節番号の修正については、さらに校正が広範囲にわたるので、その場合には除外してある（二八一節そして三一節〔sic〕かつ三三二節を見よ⁵⁾）。

原典において、本文では文字を拡大することによって、注記では肉太活字〔ボールド体、Fettdruck〕〔を使用すること〕によって、強調が行われている。そうした箇所は、今や統一してイタリック体にしてある。原典では、その他用いられているひげ文字（フラクトゥール）に代えてローマン体（Antiqua）にされている外国語、とりわけラテン語、フランス語、英語の追加挿入句については、サンセリフ体（ゴチック体）で示してある。ゾネンフェルスが、それぞれの節の終わりに、また状況次第で頁の中央に置いた注記は、その都度、頁末尾の脚注に変更してある。小文字順となっている注記の数え方（a, b, …）は変えていない。章冒頭の体裁は、統一して、第一章を手本にしている。目次（七頁）

は、編者が作成した。・・・(Ogris, pp.299-300.)」
 オグリスは、誤った最後の節番号(段落番号)四三二に合わせる形で、節番号の付け替えをした上で復刻を行っている^⑥。なお、この第五・増訂版原典には、節の通し番号のほか、頁数の表記に誤記が見られる。

2 『基本原理』の出版過程

オグリスは、『基本原理』の書誌に関して、ホルツマン(Michael Holzmann)とポアタイム(Max Portheim)の論稿を訂正する形で、記述している(Ogris, pp.303-308)。「基本原理」に関しては、それぞれ一三番と一九番に示されている。両者の記述を見てみよう。

ホルツマンとポアタイムは、版数としては第八版のみを表記している。版数を逆算すると、ホルツマンとポアタイムも第四版を一七八六年と考えていると解してよいであろう。また彼らは、第一巻初版が一七六五年から一七六七年の二年にかけて、その後第二版が一七六九年に、さらに第三版は一七七一年から一七七七年に刊行されたと記している。これらは誤記であろう。オグリスが訂正しているように、初版の刊行は一七六五年である。もし仮に

一七六七年が第二巻の刊行を指すとしても、第二巻は一七六九年の刊行である。そして第一巻第二版の刊行は一七六八年であり、一七六九年とはそもそも合致しない^⑧。しかしながら、ホルツマンとポアタイム、そしてオグリス以外にも、第四版一七八六年説を見つけることができる。ゾネンフェルスの生存中に彼を紹介したツィカン(Joh. Jak. Heincr. Czikkann)は『メーレンの存命する記

表1 ホルツマン=ポアタイムとオグリスの記述

Holzmann=Portheim, p.200.	Ogris, p.304.
13. Sätze aus der Polizei-, Handlungs- und Finanzwissenschaft. 8° Wien 1765.	13. Sätze aus der Polizey, Handlungs- und Finanz-Wissenschaft. Zum Leitfaden der akademischen Vorlesungen. 8° Wien 1765.
19. Grundsätze der Polizei-Handlung [sic] und Finanzwissenschaft. 8° Wien 1765-1767. Wien 1769. Wien 1771-1777. Wien 1786. Wien 1787. Wien 1804-1805. Wien 1798. Wien 1819. 8. Aufl. 3 Bde. Wien 1822. Übersetzt von Prinz Heraklius. Tiflis 1782 ⁽⁷⁾ .	19. Grundsätze der Polizey, Handlungs, und Finanzwissenschaft. 3 Bde. 8° Wien 1768. Grundsätze der Polizey, Handlungs, und Finanz. Wien 1771. Wien 1786. Wien 1787. Wien 1798. Wien 1804. Wien 1819. Übersetzt von Prinz Heraklius. Tiflis 1782 ⁽⁷⁾ .

述家たち』(一八一二)で、次のように第四版を
一七八六年としている。

「10)『ポリツアイ学、商業学、財政学の基本原理』。
三部。ウィーン、一七六五年から一七七六年、八折
り。第二版、ウィーン、一七六九年、八折り。^⑩第三
版、ウィーン、一七七七年、八折り。第四版、
ウィーン、一七八六年、八折り。第五版、ウィーン、
一七八七年、八折り。第六版、ウィーン、一七九八
年、八折り (Czikann, pp.158-159.)」^⑪

さらに一八一八年のゾネンフェルス追悼記事(「副総
裁フォン・ゾネンフェルス伝」『ライプツィガー文芸新
聞』)でもやはり、第四版を一七八六年としている。^⑫

オグリスは、『基本原理』第一巻の刊行年を上述のと
おり、初版一七六五年、第二版一七六八年、第三版
一七七一年、第四版一七八六年、第五版一七八七年、第
六版一七九八年、第七版一八〇四年、第八版一八一九年
としている。しかし一七七一年に刊行されたのは実は、
第一巻ではなく第二巻である。第三版の刊行年は

一七七〇年(トラットナー版とクルツベック版の二種
類)と、一七七七年とに訂正されなければならない。そ
して第四版は、今回入手された原典により、一七七四年
にやはり訂正されなければならない。さらに第六版
(一七九六年?)^⑬と第六・増訂版(一七九八年)は区別
されなければならない。

問題の第一巻第四版の記載については、次の可能性が
ある。

①一七八六年刊行の第一巻を、実際には第五・増訂版
であったにもかかわらず、オグリスたちが単純にうつか
りと表題頁を読み違えて、第四版としたという可能性。

②さらに、オグリスたちが一七八六年刊の第五・増訂
版の存在を知らず、第七版、第八版に記載されている第
四版序言 (Zur vierten Auflage) (年号なし) が、第五・
増訂版(一七八七)に記載されている序言(題名なし、
一七八六年七月二十日付)と同一であることから、
一七八六年に第四版が刊行されていたであろうと誤って
推定した可能性。

③オグリスたちが実際に一七八六年刊行の原典を入手
していて、第四版一七八六年説を採用していた可能性。

表2 『基本原理』刊行年と出版者(社)

刊行年	第1巻	第2巻	第3巻
1765	初版 トラットナー		
1768	第2・増訂版 トラットナー ⁽⁸⁾		
1769		初版 トラットナー	
1770	第3版 トラットナー クルツベック		
1771		増訂版 クルツベック	
1774	第4版 トラットナー		
1776			初版 クルツベック
1777	第3版 クルツベック		
1786	第5・増訂版 クルツベック		
1787	第5・増訂版 クルツベック	第5・増訂版 クルツベック	第5・増訂版 クルツベック
[1796?] ⁽¹³⁾	第6版 A. カメジーナ (刊行年記載なし)	第6版 A. カメジーナ (刊行年記載なし)	第6版 A. カメジーナ (刊行年記載なし)
1798	第6・増訂版 J. カメジーナ	第6・増訂版 J. カメジーナ	第6・増訂版 J. カメジーナ (刊行年記載なし)
1804	第7・改訂版 カメジーナ社	第7・改訂版	
1805		A. カメジーナ (刊行年記載なし)	第7・改訂版 カメジーナ社
1819	第8版 ホイプナー フォルケ		
1822		第8版 フォルケ	第8版 フォルケ

この③の可能性があるため、一七八六年に、筆者未見の第四版と、すでに存在が知られている第五・増訂版が同時に刊行された可能性が否定されたわけではない。ここで改めて『基本原理』の刊行年と出版者(社)を表2にまとめておく。

本書の出版に携わったのは、

トラットナー (Johann Thomas Edler von Trattner, 1717-1798)

クルツベック (Joseph Edler / Ritter von Kurzböck, 1736-1792)

J・カメジーナ (Joseph Camesina. ?-1827)

A・カメジーナ (Albert Camesina. 1770-1837)

ホイプナー (Johann Gottlieb Heubner. 1778-1859)

フォルケ (Friedrich Volke. 1780-1830)

の六人である⁽¹⁴⁾。

『基本原理』の表題頁に記載されているこれら出版者の肩書は次の表3のようになっている。

A・カメジーナ、ホイプナーそしてフォルケを除いて、上述の人物たちは、皇帝との自らの近しい関係を誇示している。

表3 『基本原理』 出版者の肩書

出版者	肩書
Trattner	Kaiserl. königl. Hofbuchdrucker und Buchhändler 皇帝・国王の宮廷書籍印刷業者、書籍商
Joseph Kurtzböck	Universitätsbuchdrucker 大学書籍印刷業者
	K. k. illyrisch- und orientalischen Hof- wie auch N. Oe. Landschafts- und Universitätsbuchdrucker 皇帝・国王のイリュリア語や東方言語の宮廷並びにオーストリア国家の領邦・大学書籍印刷業者
Joseph Edler von Kurzböck	K. k. Hofbuchdrucker Groß- und Buchhändler 皇帝・国王の宮廷書籍印刷業者、大書籍商
Albert Camesina	Buchhändler 書籍商
[Joseph Camesina] (1798年)	[K. k. privat. Buchhändl.] [皇帝・国王の私設書籍商]
Heubner, Volke	特に記述なし

3 『基本原理』 第一巻各版の構成

ここで新たに入手された『基本原理』第四版（一七七四年）を検討する。まず、第四版の書誌を確認しよう。¹⁵⁾

第四版は八折り本で、全四〇四頁となっている。表題頁（図1）で確認できるように、トラットナーは、この第四版でも、これまでの出版形式を守っていることがわかる。すなわち、ゾネンフェルスの身分、書名を記した後、小屋で、老人男性が燭台の傍ら、足元に地球儀を置きながら、左手にペンを握り、右手を口元に添えている図（このヴィネットに作者署名はない）が描かれている。そしてモットー、“Inglorius dum utilis.”「有用になるまでは、無名」が帯に記され、その帯は風ではためいている。クルツベックもまた、このモットーを表題頁に掲げていることに違いはない。

これは何を意味するのであろうか。トラットナーは、『基本原理』第一巻初版（一七六五）、第二巻初版（一七六九）、第一巻第三版（一七七〇）、そして第一巻第四版（一七七四）、計四点の出版を引き受けている。

Josephs von Sonnenfels, kaiserl. königl. wirkl. N. Oe. Regierungsraths, ordentlichen, öffentlichen Lehrers der Polizey, Handlung und Finanzwissenschaft Grundsätze der Polizey, Handlung und Finanzwissenschaft. Erster Theil, Vierte Auflage. WIEN, gedruckt bey Johann Thomas Edlen von Trattnern, k. k. Hofbuchdruckern und Buchhändlern. 1774.

[12], [1], 2-20, [21-23], 24-303, 302-303 [i.e. 304-305], 306-404 p.

Signature:) (⁶ A-Z⁸ Aa-Bb⁸ Cc²

それに対してクルツベックは、『基本原理』第一巻第二・増訂版（一七六八）、第一巻第三版（一七七〇）、第二巻増訂版（一七七二）、第三巻初版（一七七六）、第一巻第三版（一七七七）、第一巻第五・増訂版（一七八六）、第一巻第五・増訂版（一七八七）、第二巻増訂版（一七八七）、第三巻第五・増訂版（一七八七）、計九点の出版を引き受けている。トラットナーとクルツベック両者のヴィネットは、構図はほぼ同じであるが、部分的に異なっている。モットー“*Inglorius dum utilis.*”は、トラットナーとクルツベック

ク両者がともに表題頁に記載しているところから、ゾネンフェルスの意向が大きく働いたのではないかと推測される。ただし、トラットナーは第二巻初版（一七六九）において（図2）、別のモットー“*Altius.*”「高みへ」と“*Lavore et favore.*”「勤勉と好意とによつて」を表題頁に記載している。

次に、『基本原理』第一巻各版の構成と節番号（段落番号）について言及しよう（節番号に見られた混乱は表中で訂正している。また第六版の構成、節番号は、九州大学所蔵本を確認していないので、表に記載していない）。初版は、一七六五年九月二〇日付の初版序言（題名なし）¹⁶の後、「全体の序論」（ルソー「政治経済論」からの引用、I 国家学の領域区分、II 国家学の、そしてそれらの領域の主要原理）と、本論である「ポリツァイ」（ルソー「政治経済論」からの引用、¹⁷序論、対内的な公的安

全〔I 個々の等族や市民の力と国家との関係について、またここで必要となる、ポリツァイの注意点について〕、対内的な私的安全〔I 行動の安全およびそれと関連のある市民の自由について、II 道徳の状態について、そして市民の理性や性質を形成することに対するポリツァイの

図2 『基本原理』第二巻初版⁽¹⁾ 1769年 トラットナー刊

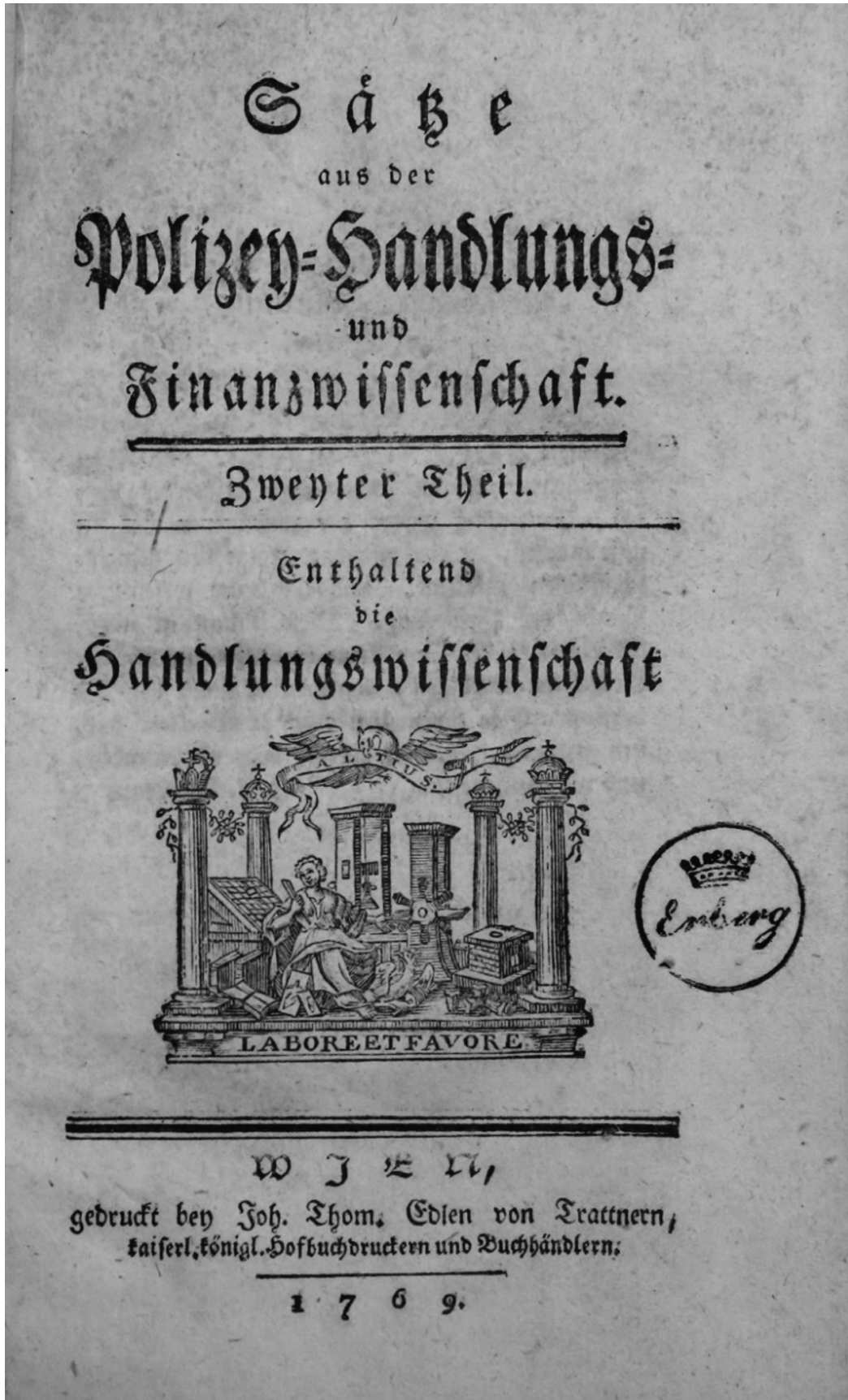


表 4 初版の構成と節番号

構成	1765
表題頁	節番号
[初版序言] 1765年9月20日	
全体の序論	
ルソーからの引用	
全体の序論	
I 国家学の領域区分	1-20.
II 国家学の、そしてそれらの領域の主要原理	21-28.
ポリツァイ	
ルソーからの引用	
序論	29-41.
対内的な公的安全	
I 個々の等族や市民の力と国家との関係について、またここで必要となる、ポリツァイの注意点について	42-62.
対内的な私的安全	
I 行動の安全およびそれと関連のある市民の自由について	63-70.
II 道徳の状態について、そして市民の理性や性質を形成することに対するポリツァイの配慮について	71-123.
III 対内的な私的安全の管理にさらに綿密に関連する法律について	124-126.
個人的安全	127-220.
名譽の保証	221-233.
財産の保障	234-270.
IV 対内的な私的安全を管理する制度	271-297.

表 5 第二・増訂版、第三版、第四版の構成と節番号

構成	1768 ★ 1770 1774 * 1777 *
表題頁	節番号
ローマ皇帝ヨーゼフ 2 世への献辞	
〔初版序言〕 1765 年 9 月 20 日	
第 2 版〔序言〕 1768 年 6 月 30 日 ★	
全体の序論	
ルソーからの引用	
全体の序論	
I 国家学の領域区分	1-20.
II 国家学の、そしてそれらの領域の主要原理／国家学の主要原理とそれらの領域＊	21-28.
ポリツァイ	
ルソーからの引用	
序論	29-41.
対内的な公的安全	
個々の等族や市民の力と国家との関係について、またここで必要となる、ポリツァイの注意点について	42-72.
対内的な私的安全	
I 行動の安全あるいは市民の自由について	73-87.
II 道徳の状態について、そして市民の理性や性質を形成することに対するポリツァイの配慮について	88-145.
III 対内的な私的安全の管理にさらに綿密に関連する法律について	146-148.
個人的安全	149-251.
名譽の保証	252-264.
財産の保証	265-306.
IV 対内的な私的安全を管理する制度について	307-352

★第二版序言は 1770 年版、1774 年版、1777 年版には記載されていない。

* 1774 年版と 1777 年版は「II 国家学の主要原理とそれらの領域」となっている。

表 6 第五・増訂版、第六・増訂版、第七・改訂版、第八版の構成と節番号

構成	1786-1787-1798	1805-1819
表題頁 肖像画：モンテスキュー	節番号	節番号
キテロからの引用		
[初版序言] 年号なし		
[序言] 1786年7月20日		
全体の序論		
リチャード・ヘイからの引用		
全体の序論		
I 国家学の領域区分	1-22.	1-22.
II 国家学の、そしてそれらの領域の主要原理	23-31.	23-31.
III 人口を計算する方法	32-42.	32-42.
序論		
ポリツァイの最も単純な概念、およびポリツァイが論述される概要	43-60.	43-60.
I 道徳の状態に対する注意点について	61-123.	61-123.
II 立法に関する高等概念を生み出す手段について	124-135.	124-135.
III 国家の権限に対して、個人の権限を従属的均衡の中で維持する配慮について	136-156.	136-156.
[IV] 行動の安全について	157-175.	157-175.
V 個人の安全について	176-239, 238-281 [i.e. 240-283], 281-293 [i.e. 284-296].	176-239, 238-293 [i.e. 240-295], 293 [i.e. 296].
VI 名誉の保証	294-304 [i.e. 297-307].	
VII 財産の保証	305-312 [i.e. 308-315], 322-323 [i.e. 316-317], 415 [i.e. 318], 325-351 [i.e. 319-345].	305-342 [i.e. 308-345].
VIII 刑罰について	352-388 [i.e. 346-382].	343-379 [i.e. 346-382].
IX 対内的な安全を管理する制度について	389-416 [i.e. 383-410].	380-407 [i.e. 383-410].
X より大きな事件における制度の利用	417-432 [i.e. 411-426].	408-423 [i.e. 411-426].

配慮について、Ⅲ対内的な私的安全の管理にさらに綿密に関連する法律について【個人の安全、名誉の保証、財産の保障】、Ⅳ対内的な私的安全を管理する制度】の二部構成となっており、節番号は二九七である。

第二・増訂版、第三版（一七七〇年、一七七七年）、第四版には、ローマ皇帝ヨーゼフ二世への献辞が追加される。そして第二・増訂版には題名なしの初版序言（一七六五年九月二〇日付）の後、一七六八年六月三〇日付の第二版序言（Zur zweiten Auflage）が記されている（第三版、第四版には、初版序言はあるものの、第二・増訂版序言は記載されていない）。そして第二・増訂版以降は、節番号（段落番号）が三五二へと増やされている。

第五・増訂版（一七八六年、一七八七年）は文字通り、大きな改訂が行われる。そして第六・増訂版は第五・増訂版の構成を引き継いでいる（第六版は上述の通り確認していない）。まず第五・増訂版では、表題頁に、老人に代わってモンテスキューの肖像が登場する（あわせて、モットー“*Inglorius dum utilis.*”も削除される）。さらに主君ヨーゼフ二世への献辞が——皇帝が在位中にもかか

わらず——削除される。第四版まではルソー「政治経済論」から引用文が二か所に掲載されていたが、キケロ¹⁸とリチャード・ヘイ¹⁹からの引用文に変更されている。また、第五・増訂版（一七八六年、一七八七年）にはともに、題名の記載がない序言が二つ掲載されている。ひとつは、初版序言である。もうひとつは、一七八六年七月二〇日付の序言である。

「全体の序論」は、Ⅰ国家学の領域区分、Ⅱ国家学の、そしてそれらの領域の主要原理、Ⅲ人口を計算する方法の三章となる。本論の「ポリツアイ」は、序論（ポリツアイの最も単純な概念、およびポリツアイが論述される概要）の後、Ⅰ道徳の状態に対する注意点について、Ⅱ立法に関する高等概念を生み出す手段について、Ⅲ国家の権限に対して、個人の権限を従属的均衡の中で維持する配慮について、「Ⅳ」行動の安全について、Ⅴ個人の安全について、Ⅵ名誉の保証、Ⅶ財産の保証、Ⅷ刑罰について、Ⅸ対内的な安全を管理する制度について、Ⅹより大きな事件における制度の利用、という十章に細分化された。それにあわせて節番号に関しても、第四版までの三五二節から四二六節（本文では四三二と誤記され

ている)に増えている。⁽²⁰⁾

第七・改訂版、第八版では、初版序言 (Zur ersten Auflage)´ 第四版序言 (Zur vierten Auflage)´ そして一八〇四年二月五日付の第七版序言 (Zur siebenten Auflage) が掲載される。この第四版序言は、上述のとおり、第五・増訂版 (一七八六年、一七八七年) に掲載されている一七八六年七月二〇日付の序言と全く同じ内容である。第七版序言でゾンネンフェルスは第五版などに不満を明らかにしている。それまでの版では「不注意が支配」し、「節番号の脱落や飛び」、行のずれがあり、意味の混乱、概念の矛盾が生じていた。第五版と第六版における誤りを正すことの重要性をゾンネンフェルスは記しているのである。

第七・改訂版、第八版の構成に変化はない。しかしながら、ゾンネンフェルスが第七版序言で指摘していた節番号の誤りはここでもやはり繰り返されてしまう。本文では四二三節とされているが、正しくは第五・増訂版と同じく、四二六節である。

オグリスが『基本原理』第一巻の復刻に第五・増訂版を選択したのは正しかった (しかし、ゾンネンフェルス自

身は、第七版序言において第五版への不満を明らかにしていた)。その理由は、ゾンネンフェルスによって本論「ポリツァイ」が文字通り大幅に増訂されたのが第五・増訂版であったからであり、また、その後の改訂もわずかであったことがこれらの表から判明するからである。⁽²¹⁾

4 おわりに

『基本原理』は、オグリスの指摘通り、初版 (一七六五年) からゾンネンフェルスの没後の第八版 (一八一九、一八二二年) までを数え、ゾンネンフェルスの生涯とともに歩んだ著作であった。本稿によって、ゾンネンフェルス『基本原理』刊行の歴史そして構成と節番号に新たな光を投影することができた。しかしながら、これまでの調査とこの第四版の発見は、次の新たな疑問を生じさせる結果となった。

①そもそも、なぜ『基本原理』は、その初期においてトラットナーとクルツベックの二人によって、刊行が行われたのか。しかも、一七七〇年にトラットナーとクルツベックが別々に第一巻第三版を出版しているのはなぜか。逆に言えば、トラットナーは第四版を最後にして、

『基本原理』の出版から手を引いたのはなぜか。

②筆者の調査によれば、第一巻第四版（一七七四年）と第三版（一七七七年）の構成は同じである。とすればゾネンフェルスとクルツベックは一七七四年版をうけて、一七七七年第三版を順番通りに第四版あるいは第五版とすることも可能であった。しかしその版数の変更はなされずに、第三版のままとされてしまった。従って、ゾネンフェルスとクルツベックはなぜ、一七七七年版を第四版あるいは第五版としなかったのか。

③ここで、第一巻表題頁の変更についても言及しておかなければならない。一七七七年までは各版とも、老人が描かれていたが、一七八六年の第五・増訂版以降、第一巻にはモンテスキュー（Charles-Louis de Secondat, Baron de La Brède et de Montesquieu. 1689-1755）の、第二巻にはフォルボネ（François Véron Duverger de Forbonnais. 1722-1800）の、第三巻にはシュリー公（Maximilien de Béthune, duc de Sully. 1560-1641）の肖像が描かれている。なぜ一七八六年以降、表題頁が変更されたのか。

④第五・増訂版以降、冒頭の二つの引用文がルソーに

代わってキケロ、リチャード・ヘイに変更されたのはなぜか。

これらの疑問の解明は別の機会を待たなければならぬ。さらに、『基本原理』第二巻、第三巻の構成（と節番号）の検討が残されている。

注

(1) 筆者が入手したのは、表題頁に王冠の下に“Erberg”とある円形の蔵書印が押されたものである。筆者が所蔵している第二巻（図2）にも、同じ蔵書印がある。この第二巻鉛筆書きの書き込みには、Joseph Freiherr von Erberg (k.k. wirklicher geheimer Rath) とある。

(2) オグリスが記述している第一巻初版（一七六五年）の表題は間違っている。正しい表題は“Sätze aus der *Polizey, Handlungs- und Finanz-Wissenschaft. Zum Leitfaden der akademischen Vorlesungen.*”『ポリツァイ、商業学および財政学の原理。大学講義の手引き』である（川又、p.185.）。

(3) オグリスは、自分が使用している原典の書誌を記述していない。ただし復刻版に記載されている表題頁画像は、ウィーン大学図書館所蔵本のものである（Universitätsbibliothek Wien, Sign. 185.096. Ogris, p.309.）。

- (4) 第一卷第五・増訂版には頁数の誤記があり、全体で五六二頁が正しい。
- (5)(6) オギリスは、二八一節を二つ設け、三二二節から三二二節に節番号を飛ばすことで、最終的に四三二節としている。節番号を順番通りにつければ、正確には四二五節となる。表6を参照せよ。
- (7) ホルツマンとポアタイム、そしてオギリスに示されているヘラクリウスの訳書は、筆者未見である。アルターは、「ヨーゼフ・フォン・ゾネンフェルスの『ポリツァイ学の基本原理』、国王ヘラクリウス (Heradius) がペルシャ語からゲルジア語〔ジョージア語〕に翻訳。ティフリス (Tiflis) の王室書籍印刷所にて、1782年、印刷。」と記し、その存在に言及している (Alter, pp.122-123)。アルターの言及が正しいとすると、ゾネンフェルスの『基本原理』の第一巻は、ドイツ語からペルシャ語に翻訳され、それにそれがゲルジア語〔ジョージア語〕に重訳されたことになる。
- (8) 第一巻第二版には二つの異なる版がある。筆者が所収している一七六八年版には索引や正誤表はない。しかし、一橋大学フランクリン文庫に所蔵されている第一巻第二版 (Franklin:6687) は、筆者所蔵本とは異なり、索引や正誤表がついている。フランクリン文庫所蔵本は、刊行年が一七六九年とされている。しかしその表題頁の刊行年印字部分は、四桁目の数字がかすれており、八か九かは判然としていない。
- (9) 初版の刊行は一七六五年であり、「一七六五年から一七七六年」は誤りである。
- (10) 注(8)を参照せよ。
- (11) ゾネンフェルス存命中なので、ここでは当然に第八版は登場しない。
- (12) 「副総裁フォン・ゾネンフェルス伝」は、無署名記事で、「『ポリツァイ学、商業学および財政学の基本原理』。三部。ウィーン、一七六五―一七七六年、八折り。第二版、ウィーン、一七六九年、八折り。第三版、ウィーン、一七七七年、八折り。第四版、ウィーン、一七八六年、八折り。第五版、ウィーン、一七八七年、八折り。第六版、ウィーン、一七九八年、八折り。」とされている (column 1635)。
- (13) 第六版の刊行年は記載がないが、序言に「一七九六年七月二十日」(1796 Julius 20) が記されているので、ここでは一応、一七九六年を挙げておく。あわせて表2を参照せよ。
- (14) この六人を簡単に紹介しよう。まず、トラットナーは、一七一七年七月八日、ハンガリーのギュンス (Güns) 郊外ヤールマンズドルフ (Jahrmansdorf) に生まれた。トラットナーは一五歳の時から印刷業を学び始めた。一七三九年彼はウィーンへ住所を変え、修行するためにヨハン・ペーター・ファン・ゲーレン (Johann Peter van Ghelen) の印刷所に入った。九年後の一七四八年、後援

者の援助を受け、印刷所を購入して、翌年には「大学書籍印刷業者」(Universitätsbuchdrucker)となった。その後、宮廷とも関係を結び、一七五〇年にはマリア・テレジアへの謁見を許された。一七五一年、宮廷書籍商(Hofbuchhändler)の特許を得ている。一七五四年ゲーレンが亡くなると、宮中業務における「印刷特許権」(Privilegium impressorium)が与えられている。そして一七五九年には「領邦書籍印刷業者」(Landschaftsbuchdrucker)となっている。植字工、製本工、活字鑄造工、銅版彫刻工、銅版印刷工を備えた印刷工場をヨーゼフシュタットに建設した。彼は、ヨーゼフ二世の戴冠(一七六四年)の機会に、騎士身分を申請して授与されている。彼はオーストリア内外で活躍した。一七九八年七月三十一日没した(Cf., Mayer, Gloeter)。

クルツベックは、一七三六年十一月二日に生まれ、一七九二年一月一日に没した。一七五五年、父親から大学印刷業を引き継ぎ、イリュリア語や中近東諸国の言語の印刷物に照準を合わせた。活字印刷の功績が認知され、大学書籍部(Universitätsbuchhandlung)を設置することができた。彼は、活字鑄造や印刷で技術的改良を続け、特許権で保護された上述のトラットナーと、装丁の美しさや書籍価格の安さで競争した。マリア・テレジアは、彼を一七七六年オーストリア貴族身分(Adelsstand)に列せしめる(Cf., W., K.)。

フランク(Peter R. Frank)とフリンメル(Johannes Frimmel)によれば、カメジーナ社(Camesina & Comp.)は、一七九四年から一八一六年まで営業している(Frank, Frimmel, p.28)。その間、次のように所有者が変化している。

カメジーナ社の所有者

1794-1798	ヨーゼフ・カメジーナ (Joseph Camesina. ニー ダーエストライヒの バーデン 1827年没)
1794	クリスティアン・フリー ドリヒ・ミスラク (Christian Friedrich Mislac. 1760年ごろライ プツィヒ生まれ、ウィー ン 1794年12月8日没)
1798-1813	アルベルト・カメジーナ (ウィーン [洗礼] 1770 年7月26日、ウィーン 1837年5月2日没)
1813-1816	ヨハン・ゴットリープ・ ホイプナー(ライプツィ ヒ 1778年頃生まれ、 ウィーン 1859年12月 27日没)

カメジーナ社の初代ヨーゼフ・カメジーナは、ミスラクとの共同所有という形で業務を開始したが、そのミスラクが亡くなってしまふ。その後ヨーゼフは、一七九四年まで大学書籍商として活動し、弟アルベルト・カメジーナに業務を引き継いでいる。

さらにヨハン・ゴットリープ・ホイプナーが、

一八一三年にカメジナ社を引き継ぎ、一八一六年まで経営に従事した (Frank, Frimmel, p.28.)。その後ホイプナーは、フォルケと一緒に出版社 (Verlag von Heubner und Volke) を作り、一八一六年、カメジナ社は閉業している。このホイプナーとフォルケの出版社についてはあまり分かっていない。その後、フォルケは、独りで出版業に従事する。フォルケの出版社は、ウィーンでは、イタリア語文献の専門業者と見なされた。

(15) 各版の書誌については前稿 (川又、二〇一七) を参照せよ。

(16) ルソー「政治経済論」からの引用は次のとおりである。

「政治体は、個別的に取りあげれば、人間の身体に類似した、生命をもつ一つの組織体と考えることができる。すなわち主権は、頭をあらわす。法と慣習は脳髓である。それは神経の本源であり、悟性、意志および感覚の中枢である。裁判官と行政官はその機関である。商業、工業および農業は共同の生計の資を用意する口および胃である。公財政は、賢明な経済が心臓の役目をして身体全体に送り返し、栄養と生命を行き渡らせる血液である。市民は、機関を動かし、生きさせ、働かせる胴体および手足である。」 (Rousseau, p.244. 坂上訳, pp.66-67.)

(17) ルソー「政治経済論」からの引用は次のとおりである。「共和国のあらゆる部分に秩序と平和を行きわたらせる

ことは大したことであり、国家が平穏で法が尊重されることも大したことである。しかしそれ以上のことがなにも行われなければ、これらすべてのことは現実のものよりも外見上のものになるであろうし、政府が服従を得ることだけにとどまるならば、服従させることは困難になるであろう。あるがままの人間を用いる術を心得ることはよいことであるとしても、人間をあるべき存在にすることのほうがはるかに良いことである。最も絶対的な權威とは、人間の内面にまで浸透し、行動に劣らず意志に対して働きかける權威である。」 (Rousseau, p.251. 坂上訳, p.74.)

(18) ゾネンフェルスはキケロ『予言について』の原文を一部変更して、引用している。

“quod munus afferre majus, meliusve reipublicae possumus, quam si docemus, atque erudimus juventutem ?” (Cicero, p.374.)

「私たちは、国家に対して、若者を教育し訓練すること以上に、どのような重要で素晴らしい贈り物をする事ができるというのか。」

ゾネンフェルスは、引用先を『予言について』第一巻第三章としているが、正しくは第二巻第二章である。オグリスは、ゾネンフェルスの間違いを訂正せず、Cicero de Divin. I. III. と記載している (Ogris, p.8.)。

(19) リチャード・ヘイ (Richard Hey, 1745-1835) は、数

か月前に刊行されたりチャード・プライス (Richard Price, 1723-1791) の『市民的自由』(Observations on the Nature of Civil Liberty, 1776) への応答の書を執筆している。引用文はそこからのものである。

〔s4〕「数学はしばしばとても難しいと言われる。そして数学に相当の時間と関心とを捧げることをしなかつたひとは、数学の問題についてあえて語ろうとはしない。一方、政治学は、理解するのが簡単であると考えられている。誰もが(あるいはあちこちでひとは)政治の問題について沈黙することは必要とは考えない。それは単にひとが、それを重大で骨の折れる研究の対象としてこなかつたからである。これは、何かを知るといふ現象を手にするために、数学者の場合は自分の考えを区別・整理せざるを得ないのである。彼は、数学者の役を受け入れるためには、現実の知識を獲得するいくつかの困難を体験したに違いない。しかし政治学において、現象は、現実からもっと切り離されている。政治家の頭の中で、完全に別個の当惑しない一つの考えもなしに、政治家は政治の用語と語句を気分次第で使用して、まじめにそして慎重深く考えるひと全員のひんしゆくを買うであろう。ひとは、自分の問題について語る事ができると分かっているのでそれを理解していると考えるのである。誠実な真理探究者がこれら科学の二部門に専念しようとするのであれば、彼は政治学よりも数学のほうが、知識の実際的发展がずっと容易であると理解するで

あろう、と私は信じる (Hey, pp.2-3.)」
 オグリスは著者の名前を Hey ではなく、Hay と記載している (Ogris, p.12.)
 (20) 表6を参照せよ。
 (21) これら各版の改訂において、「全体の序論」第二章の題名が変遷している。

「全体の序論」第二章の題名

初版、第二版、第三版 (一七七〇)	II Hauptgrundsatz der Staatswissenschaft und ihrer Zweige
第四版および第三版 (一七七七)	II Hauptgrundsatz der Staatswissenschaft und ihre Zweige
第五・増訂版以降	II Hauptgrundsatz der Staatswissenschaft, und ihrer Zweige

ゾネンフェルスは、第四版(一七七四年、トラットナー)で「II 国家学の、そしてその領域の主要原理」から「II 国家学の主要原理とそれらの領域」に変更し、第三版(一七七七年、クルツベック)でもその変更を踏襲していた。しかしゾネンフェルスは第五・増訂版で再

びそれを従来の表題「国家学の」としてこれらの領域の主要原理」に戻しているのがある。ただし、第三版（一七七七年、クルツベック）のもうひとつの異版（https://books.google.co.jp/books?id=NuKTAQAAQAAJ&printsec=frontcover&hl=ja&source=gbs_ge_summary_r&cad=0#v=onepage&q&f=false）では「国家学」としてそれらの領域の主要原理」となっている。

参考文献

川又祐「ゾネンフェルスと『ポリツァイ、商業および財政の基本原理』」『法学紀要』、五八巻、二〇一七年。

Alter, Franz Carl. *Ueber Georgianische Literatur*. Wien, gedruckt bei Johann Thomas Edl. von Trattnern, k. k. Hofbuchdruckern und Buchhändlern. 1798.

http://digital.onb.ac.at/OnbViewer/viewer.faces?doc=ABO_%2BZ158141603

“Biographie des Vice - Präsidenten von Sonnenfels,” in: *Leipziger Literatur-Zeitung. Intelligenz - Blatt*. Am 15. des August. 1818. 1633-1637.

<https://opacplus.bsb-muenchen.de/Vta2/bsb10502173/bsb:6697315?page=171>

Cicero, *De divinatione*. in: *The Loeb Classical Library*. ed., by T. e. Page et alii. v. 154. London. Harvard University Press. 1964.

Czikann, Joh. Jak. Heinr. “Joseph von Sonnenfels,” in: *Die lebenden Schriftsteller Mährens*. Brünn, bey Joseph Georg Tratsler. 1812. pp.154-162.
https://reader.digitale-sammlungen.de/de/fs1/object/display/bsb10731871_00158.html.

Gloeter, Hermine. *Johann Thomas Trattner. Ein Großunternehmer im Theresianischen Wien*. 1952. Hermann Böhlau Nachs., Oes. m. b. H., Graz-Köln.

Hey, Richard. *Observations on the Nature of Civil Liberty, and the Principles of Government*. London. Printed for T. Cadell, in the Strand ; and t. and J. Merrill, in Cambridge. 1776.

<https://books.google.co.jp/books?id=BnNbAAAAQAAJ&pg=PP3&lpg=PP3&dq=Observations+on+the+Nature+of+Civil+Liberty,+and+the+Principles+HEY,+RICHARD&source=bl&ots=7aVAphdCSZ&sig=ACFU3U3Bv3s2y9zUJov2quIWhdPHQfJjbg&hl=ja&sa=X&ved=2ahUKEwiN48LV8YPiAhW1GqYKHaU9AXEQ6AEwDnoECAkQAQ#v=onepage&q=Observations%20on%20the%20Nature%20of%20Civil%20Liberty%2C%20and%20the%20Principles%20HEY%2C%20RICHARD&f=false>

Holzmann, Michael. Portheim, Max. “Materialien zu einer Sonnenfels-Biographie,” in: *Zeitschrift für die Geschichte der Juden in der Tschechoslowakai*. 1. Jahrgang. Heft 3.

- Brunn. 1931. pp.198-207. 2. Jahrgang. Heft 1. Brunn. 1931. pp.60-66.
- Mayer, Anton. "Tratner, Johann Thomas Edler von," in: *Allgemeine Deutsche Biographie*. Bd., 38. 1894. pp.499-501.
- Ogris, Werner. hrsg. *Joseph von Sonnenfels Grundsätze der Polizey. Bibliothek des Deutschen Staatsdenkens*. Hans Maier und Michael Stolleis. hrsg. Bd., 12. Verlag C. H. Beck. München. 2003.
- Rousseau, Jean-Jacques. *Discours sur l'économie politique*. in: *Oeuvres complètes. Du contrat social. Écrits politiques*. Bibliothèque de la Pléiade. Édition publiée sous la direction de Bernard Gagnebin et Marcel Raymond. vol. 3. NFR Gallimard. 1964. ルノー 阪上孝 訳「政治経済論」『ルノー全集』第五巻 白水社 一九七九年。
- Sonnenfels, Joseph von.
1. *Sätze aus der Polizey, Handlungs- und Finanzwissenschaft. Zum Leitfaden der akademischen Vorlesungen*. WIEN gedruckt bey Johann Thomas Edlen von Tratnern, kaiserl. königl. Hofbuchdruckern und Buchhändlern. 1765.
<https://reader.digital-sammlungen.de/resolve/display/bsb10767320.html>
 2. *Grundsätze der Polizey, Handlung und Finanzwissenschaft*: Erster Theil: zweyte, verbesserte und vermehrte Auflage. WIEN, bey Joseph Kurtzböck, Universitätsbuchdrucker 1768.
 3. *Grundsätze der Polizey, Handlung und Finanzwissenschaft*. Erster Theil, Dritte Auflage. WIEN, gedruckt bey Johann Thomas Edlen von Tratnern, kaiserl. königl. Hofbuchdruckern und Buchhändlern. 1770.
 4. *Grundsätze der Polizey, Handlung und Finanzwissenschaft*: Erster Theil. Dritte Auflage. WIEN, bey Joseph Kurtzböck, k. k. illyrisch- und orientali-schen Hof- wie auch N. Oe. Landschafts- und Universitätsbuchdruckern. 1777. Reprint, 2009.
<https://archive.org/details/grundstzederpo01somn>
https://books.google.co.jp/books?id=NuKTAQAQAQAJ&printsec=frontcover&hl=ja&source=gbs_ge_summary_r&cad=0#v=onepage&q&f=false
 5. *Grundsätze der Polizey, Handlung und Finanzwissenschaft*. Erster Theil. Vierte Auflage. WIEN, gedruckt bey Johann Thomas Edlen von Tratnern, k. k. Hofbuchdruckern und Buchhändlern. 1774.
 6. *Grundsätze der Polizey, Handlung, und Finanz*: von

- Sonnenfels Zu dem Leitfaden des politischen Studiums: Fünfte, vermehrte und verbesserte Auflage. Wien bei Joseph Edlen von Kurzbeck, k. k. Hofbuchdrucker Groß- und Buchhändler. 1786.
7. *Grundsätze der Polizey, Handlung, und Finanz: von Sonnenfels Zu dem Leitfaden des politischen Studiums*: Fünfte, vermehrte und verbesserte Auflage. Wien bey Joseph Edlen von Kurzbeck, k. k. Hofbuchdrucker Groß- und Buchhändler. 1787.
8. *Grundsätze der Polizey, Handlung, und Finanz von Sonnenfels Zu dem Leitfaden des politischen Studiums*. Sechste Auflage. Wien, bey Albert Camesina, Buchhändler in der untern Breunerstrasse. 刊行年記載なし。九州大学図書館 Call number: S.G./2014/E (1) Kyushu University Library
9. *Grundsätze der Polizey, Handlung, und Finanz: von Sonnenfels Zu dem Leitfaden des politischen Studiums*. Sechste vermehrte und verbesserte Auflage. Wien bey Joseph Camesina und Kompagnie, in der untern Breunerstrasse. 1798.
10. *Grundsätze der Polizey, Handlung, und Finanz: von Sonnenfels Zu dem Leitfaden des politischen Studiums*. Siebente verbesserte Auflage. Wien, 1804 in der Camesinainen Buchhandlung.

<https://catalog.hathitrust.org/Record/011408443>

11. *Grundsätze der Polizey, Handlung, und Finanz: von Sonnenfels. Zu dem Leitfaden des politischen Studiums*. Erster Theil. Achte Aufl age. Wien, 1819, im Verlag von Heubner und Volke. Reprint 1970.
- W., K., “Kurzbock, Joseph Ritter von” in: *Allgemeine Deutsche Biographie*. Bd., 17. 1883. pp.431-432.

Summary

On Revisions to Vol. 1 of Joseph von Sonnenfels' *Grundsätze der Polizey, Handlung, und Finanz* and the Discovery of the Fourth Edition (1774).

Professor Hiroshi Kawamata, Nihon
University College of Law

I have inquired into Sonnenfels and his *Grundsätze* in my preceding paper. The existence of the fourth edition was totally unknown to us. After the publication of my paper, I luckily could get the fourth edition of the first volume (1774). Therefore, its publishing history is described as follows. The first edition of the first volume is published in 1765, the second, revised and enlarged is in 1768, the third is in 1770 and 1777, the fourth is in 1774, the fifth, revised and enlarged is in 1786 and 1787, the sixth is without publication year [1796?], the sixth, revised and enlarged is in 1798, the seventh and revised is in 1804, the eighth is in 1819. Werner Ogris says that the fourth edition is published in 1786. But I can't unfortunately find and get it yet.

There are still some unsolved questions. 1. Why had Sonnenfels requested the publication of his *Grundsätze* to

both Trattner and Kurzböck ? But why had Trattner ended the publication of his *Grundsätze* after the fourth edition (1774) ? 2. Why had Sonnenfels and Kurzböck called the edition of 1777 as the third ? 3. Why had Sonnenfels changed the title page's portrait of the first volume from an old man to Montesquieu (the second volume to Forbonnais and the third volume to Sully) ? 4. Why had Sonnenfels changed the two citations from Rousseau to Cicero and Richard Hey since 1876 (the fifth edition) ?

I must inquire into the second and third volume of his *Grundsätze* in the future.